

読解力に関する VALUE ルーブリック

詳細は value@aacu.org を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用するものであり、成績をつけるためにしようするものではない。この15のVALUEルーブリックに示された、学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUEルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、全ての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

定義

読解力とは「書かれた言語と相互作用し、関わる事により、意味を抽出すると同時に構築する過程である」（スノー他、2002）。
(www.rand.org/pubs/research_briefs/RB8024/index1.html)

概要

「パイドロス」（プラトンの中期対話篇の1つ）をパラフレーズするにあたり、テキストはそれ自身について説明してくれないし、質問にも答えてくれない。特に、学習の目的で大学の教室で使われる学術的文書は、捜し当て、アプローチし、解読、理解、分析、解釈、議論されねばならない。歴史的に、大学教授達は、学生が「リメディアル教育」を必要とする「基本的技能」として以外は、読解の指導は必要がないと考えてきた。彼らは、学生は読解能力を備えて入学してくるものと仮定し、その能力がない場合は、初等教育、中等教育の教師に責任があるとしてきた。

高等教育においてこのように、読解が教授されていない事態は変えねばならないし、変えられ、変わっていくであろう。そして、本ルーブリックがこの変化の方向を示してくれる。何故変化が必要なのだろうか？高校から大学に進学する最も優秀で経験を積んだ読者でも、専門的、学術的学問という関係性において、テキストを理解するためには、何を知り、何をすべきかを学んでいないからである。あまり優秀でなく経験のない者においては尚更である。また、彼らは、学部あるいはそれ以降の期間を通して、難しいテキストに取り組んだ結果、自然と読解力の範囲を広げ発達させる。本ルーブリックは、その過程において、学部生の進捗を計る方法論を見つけるための、第一段階を提供するものである。本ルーブリックを作成するにあたっての我々の意図は、学部生が、読者として、テキストに対する関心をますます高め、「理解して」読めるようにする教育を支援し推進することである。

読者が、学部生時代の経験を越えて前に進むにあたっては、テキストにアプローチし、内省的な好奇心と、テキストの状況を生活の中の様々な状況に応用する能力を持ってテキストに対応するよう、動機づけられるべきである。本ルーブリックは、学生とテキストとの間で深まる関係、および講義で提示される幅広い分野のテキストの読解に対する相関的達成度を評価する枠組みを提供するものである。本ルーブリックを使用すると、それぞれの区画の境界は透過性があり、ルーブリックの基準はある程度、相互に関連し合っていることがわかるだろう。

読解力に関する VALUE ルーブリック

詳細は value@aacu.org を参照



用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

分析	更に高度なテキストの意味の理解を構築するために、テキストの特性を認識し、使用する過程。（ジャンル、言語、語調、表明された目的、明示的または黙示的な論理（推論の不備も含む）、テキストの意味に貢献する歴史的な文脈等の評価、を含むかもしれない）。
理解	文字通り、及び比喩的な意味で、読者がテキストを「習得する」程度。熟達した高度な読者は、テキストの言語が提供する意味を「習得」できる段階から、テキストの言外の意味、提起される問題、それに対応して提案する可能性がある反論を「習得」することができるように成長するであろう。「理解」についての有用な議論が RAND 報告書の第 2 章から入手可能である。 理解のための読書： www.rand.org/pubs/monograph_reports/MR1465/MR1465.ch2pdf 。
認識論的レンズ	ある学問領域において、読者が大学の専攻を通して、（エッセイ、教科書、章、文学作品、雑誌記事、実験報告、補助金申請書、講義、ブログ、ウェブページ、あるいは文芸批評等）学ぶことで前進する際に構築する知識の枠組み。この知識の深さと幅は、学生が出会う、どの学問分野や領域においても幅広いテキストへの自立し、自己制御された反応の基礎となる。
ジャンル	アカデミック・ディスコースとの関わりを通して学んだ、専門分野の慣行や取り決めによって定義される、ある特定の「テキスト」。ジャンルによって、テキストが何についてか、どのように構成されているか、何が予期されるか、テキストで何ができるか、どのように使うかが決まってくる。
解釈 解釈方法	文字情報または文脈情報に基づいて、ある特定の方法で、テキストまたはその一部の意味を決定するか説明すること。 様々な視点からの目的を持ったアプローチ。例えば、明確にするための質問をする、テキストが書かれた文脈の知識を構築する、反事実的条件文を想像し検討する（テキストの過程や主張に異議を唱える質問をする。例えば、南北戦争が起こらなかったら我が国はどうなっていたか？ハムレットが単に王を殺したとしたら、ハムレットはどのように違っていたか？等）
多重視点 部分	テキストに基づく意味が視点によりどう変わり得るかの考察 タイトル、表題、文脈からの語彙の意味、テキストの構成、重要な考えとそれらの関係
テキストとの関係 関係を意図的に探し求める テキストを分解する	読者が、あるテキストまたは一連のテキストに寄せる期待と意図 探求と研究に密接に関連した、能動的で高い意識の思考 テキストの要素の重要性または観念性の程度を見極め、全体の意味の大きな部分または小さな部分として見る（上記の「分析」と比較のこと。）
メタ認知	この用語はルーブリックには明示されていないが、多くの記述において潜在的に含まれており、成功した豊かな学習を議論する際に、頻繁に出てくる用語である。メタ認知（一般に、認知心理学者、J.H.フラベルによって提唱されたと言われている）は、読解に適用される場合、意識、故意、反射性を指す。これにより、読者が、実験報告から、ソネット、または数学から歴史的物語、あるいは補助金申請書から劇画に至る、様々な種類のテキストを効果的に読み進むために、コントロールしなければならない活動や方法が明確になる。メタ認知はここではまた、そのようなテキストに反映されている精神を考察する能力、すなわち、精神が存在することを知り、テキストを使用するか、対応する時はいつでもその精神を考察しなければならないという知識を備えた、熟練した読者の能力も指す。

読解力に関する VALUE ルーブリック

詳細は value@aacu.org を参照



定義

読解力とは「書かれた言語と相互作用し、関わる事により、意味を抽出すると同時に構築する過程である」(Snow 他、2002)。(www.rand.org/pubs/research_briefs/RB8024/index1.html)

単独の課題、または複数の課題を統合して、ベンチマーク（基準1）に達しない場合は0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
理解	文脈、視点、あるいは教室内の課題を超えた問題、または著者の明示的なメッセージを超えた問題に対する、テキストの影響を認識する（進行中の幅広い問題を認識し、著者のメッセージや提示に異議を唱えるかもしれない）	筆者のメッセージと態度について、さらに複雑な推論を引き出すために、テキスト、一般的背景知識や、著者の背景についての具体的な情報を用いる。	テキストの特性（文や段落の構成あるいは語調）が著者のメッセージにいかに関与しているかを評価する。文脈とテキストの目的について基本的な推論を引き出す。	テキストが伝える情報を言い換えたり、要約したりするために、適切に語彙を理解する。
ジャンル	ジャンル内またはジャンルを超えてテキストを見分ける能力を活用し、あるテキストの一般的なニュアンスに基づいて、予想及び読書法をモニターし、調整する。	ジャンル間の差異、およびジャンルの特徴的な慣行を明確に述べる。	様々な分野にわたる読書経験を内省し、実験的にまた意図的に、性分に合うものまた合わないものも読む。	不注意だとしても、生産的な方法で、ジャンルに関する暗黙の了解を、様々な授業の読書課題へ適用する。
テキストとの関係 文脈においてテキストの意味をとる	様々な学問分野内、また学問分野を超えて、テキストを学問的意味、関連性のために評価し、テキストをその貢献と影響に従って評価する。	学問的知識の基礎を構築し、重要な問題を提起し探索するために、テキストを学問の文脈において活用する。	時事問題と世界に関する知識を構築する意図と期待を持って、テキストに関わる。	正答を見つけ、事実と概念を学習する意図と期待を持って、単位取得のために、テキストに課題としてアプローチする。
分析 部分的また全体的にテキストと関わる	様々なテキスト・学問分野内、またテキスト・学問分野を超えて、知識や洞察を構築するために、意見、テキストの構造や他の特徴を関係づけるための方法を評価する。	テキスト全体の高度な理解を支援する方法を評価するために、意見、テキストの構造や他の特徴間の関係を確認する。	テキスト全体の基本的な理解へいかに貢献するかを検討する際に、効果的・非効果的な議論や、文学的特徴のようなテキストの部分間や、側面間の関係を認識する。	必要に応じて、課題で出された質問に対応するため、テキストの側面（内容、構造、または思考間の関係等）を確定する。
解釈 意味の青写真としてテキストを理解する	適切な認識論的レンズを用いて読むことが出来る証拠のみならず、自分の学問分野や読者のコミュニティの内外で、継続した対話の一部として読書に従事することが出来るという証拠を示す。	自分の学問分野や読者のコミュニティに特有な、多様な読書方法および解釈方法の理解を明確にする。	読書の目的に応じて、解釈方法の中から選択し目的を持って、読書できることを示す。	課題を明確にするために、教師のような外部の権威者に頼り、読書の目的を特定する。
読者の声 テキストに関するアカデミック・ディスコースに関わる	さらに、学問的会話を維持するために、自律的、知的、倫理的にテキストを討論する。	進行中の討論を深め、強化するためにテキストを（解釈や質問を通して）詳述する。	テキストの基本的共通理解に寄与するように、テキストを系統だった会話（教室の中のような）の中で討論する。	著者が伝えようとする意味を残したまま、それを課題と結びつける方法でテキストについてコメントする。